

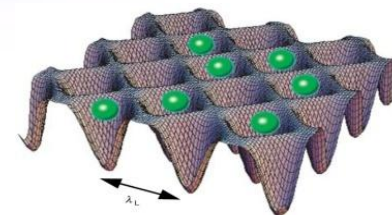
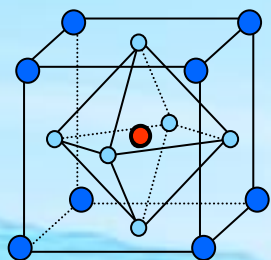
13th Wine and Cheese Seminar

ハバードモデル ～強相関係の物理～

講師: 川上 則雄 教授 (凝縮系理論)

日時: 5月27日 (金) 午後5時20分～

場所: 理学部5号館5階 第4講義室 (525号室)



ハバードモデルは、固体中で生じる金属・絶縁体転移や磁気転移などを説明するため1960年代に導入されたものである。この一見「簡単すぎるモデル」は、強磁性・反強磁性、フェルミ液体、モット転移、非従来型の超伝導などの多様な物理を記述し、強相関係の「カノニカルモデル」の役割を担っている。

最近では 強相関電子系に限らず冷却原子系における新奇現象の解析にも用いられている。ここでは、ハバードモデルにまつわる凝縮系物理の話題をいくつか紹介する。

※ ワインとチーズでの歓談は午後5時から
理学部5号館の1階のリフレッシュスペース
で行います。

